

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル  
第 20 回定時株主総会 質疑応答要旨

【株主 A 様ご質問】

ドライブレコーダーを用いた安全運転支援に限らず、自動運転車に搭載される様々なセンサーをつなぐ信号処理等を当社が担う方向性・可能性は考えられるか。

【ご回答】

いわゆるセンサーフュージョンに関するご質問と理解しました。当社は既にステレオカメラ、LiDAR、レーダー、イベントベースセンサー等の様々なセンサーを使用してお客様へのソリューション開発を行っております。イベントベースセンサーは、動き・変化のあった部分のみを非常に高い時間分解能でとらえることが可能なことから省電力性に優れており、Prophesee 社、レスターエレクトロニクスと共同でソリューション提供を開始しています。このセンサーフュージョンと、AI、GPU、SLAM 技術を融合させた高度な 3D 認識技術である DMP 3D Perception を組み合わせて、安全運転支援を始めとした各事業に取り組んでおります。

なお、安全運転支援分野において、当社も取り組んでいる DMS (Driver Monitoring System) は、ヨーロッパを中心に世界的に車両への搭載が義務化される動きがあること、および、運転者の視線を検知するアイトラッキング等の技術を用いて運転者自身が運転できる状態か否かを監視することがレベル 3 の自動運転実現のキーと認識され始めていることから、非常に有望な市場と考えております (山本)。

【株主 B 様ご質問】

各社がステレオカメラや複数のセンサーを用いて AI による自動運転に取り組んでいるが、左右方向は視差角で立体視が可能だが、上下方向の立体視が弱いのではないかと考えている。この点について AI を用いて解決することができるのか。

【ご回答】

ステレオカメラ等に SLAM 技術、セグメンテーション技術を組み合わせることで、階段やスロープ等の上下方向の立体視も可能です (ベンジャミン)。

以 上